

電子書籍の最新動向⑩

—日本語対応電子書籍フォーマット統一化の動向—

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。日本の出版各社はこの震災に際して、電子出版を無料公開するなどいち早く震災支援に立ち上がりました（→注1：下記「日本電子出版協会ニュース 168号」参照）。今回の大震災を機に日本国内においても電子書籍の普及が進むのではないかともいわれています。

今回は電子書籍の普及にとって重要な「日本語対応電子書籍フォーマット統一化の動向」についてです。

■電子書籍フォーマットの現状と問題点

(1) 電子書籍フォーマットとは、電子書籍配信・販売用のデータ形式、データの記述方法の取決め（規格）のことです。現在流通している電子書籍の主なフォーマット（データ形式）としては、下記のようなものがあります。

- PDF：印刷用だけでなく、電子書籍でも基本のひとつ。ページ概念あり。
- EPUB（イーパブ）：米国の標準化団体 IDPF（International Digital Publishing Forum）が策定した電子書籍の標準フォーマット。グーグル、アップル、ソニーなどが閲覧用フォーマットとして採用している。
- AZW：アマゾン Kindle 用の独自フォーマット。
- XPDF：シャープが開発し、テキストや漫画、辞書など色々な書籍のコンテンツをサポートし、携帯電話中心に特に日本国内で普及している。
- .book（ドットブック）：ボイジャーが開発した電子書籍のフォーマット。縦組やふりがな、ルビなど日本語特有の表示方法にも対応、ドットブック形式の電子書籍を読むには閲覧ソフトの T-Time が必要。

(2) 現在世界の市場を二分している電子書籍フォーマットは、アマゾン Kindle 用の「AZW」と、アップルのアイブックストアなどが採用している「EPUB（イーパブ）」ですが、その両方ともが現時点では「縦書き」「ルビ（振り仮名）」「禁則処理」など日本語独自の表記には対応していません。このままでは紙の出版物で実現できている日本語表現を電子書籍では世界に発信できないことになり、これら規格に日本語仕様を盛り込むことが課題となっています。

(3) 現時点では日本の出版業界は日本語に対応したシャープの「XPDF」やボイジャーの「ドットブック」を多く採用しています。ただ電子書籍フォーマットが端末毎に乱立し、互換性がないため、制作側はそれぞれにあったデータを作成しなければならず、利用者側も端末によって読めない電子書籍が生じるなどの問題があり、電子書籍フォーマットの統一化・標準化が大きな課題となっています。

■日本語対応電子書籍フォーマット統一化の動向

(1) 総務省の電子出版環境整備事業

上記問題も含めて総務省、文部科学省、経済産業省と関係団体による「電子書籍の利活用に関する懇談会」が開催され、昨年6月に「報告書」をまとめました。総務省はこの報告書を受けて「日本語基本フォーマット

トの確立」など電子出版環境整備の提案を求める公募を実施（新 ITC 利活用サービス創出支援事業：予算規模 8.3 億円）、日本電子書籍出版社協会を代表提案者とする「電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト」、日本電子出版協会などが共同提案者となった「EPUB 日本語拡張仕様策定」など 10 件が採用され、今年 2 月から 3 月にその活動成果が発表されました。

(2) 電子書籍制作の生産性を向上する「電子書籍交換フォーマット標準仕様」の策定

「電子書籍交換フォーマット」とは、各種電子書籍端末用データへの容易な交換（変換）を目的とした XML フォーマットで、今回は「XMDF」と「ドットブック」を基にその標準化を図りました。これにより制作側は一つのコンテンツから一つの交換用ファイルを作成すれば、マルチプラットフォームに対応できるようになります。今までの「ワンコンテンツ・マルチファイル」の非効率性が解決さ、電子書籍コンテンツ制作の生産性が向上、出版社もよりスピーディに多くの作品を提供でき、読者も閲覧用端末からより多くの電子書籍を選べるようになります。より詳しくは下記ページをご参照ください。

- ・[電子書籍交換フォーマット標準化会議のプレスリリース](#)（2011 年 2 月）
- ・[「電子書籍中間（交換）フォーマット統一規格策定の動向」](#)

(3) 電子書籍フォーマットの世界標準「EPUB3」、日本語に対応

米の電子書籍標準化団体 IDPF は、今年 2 月に電子書籍フォーマットの事実上の世界標準となっている EPUB の次期規格「EPUB3（イーパブスリー）」の草案を公開しました。「EPUB3」は日本語を含む多言語対応を一気に進めたのが最大の特徴で、縦書き、ルビ、禁則処理など日本語表現特有の仕様が盛り込まれています。2 月上旬に開かれた電子書籍関連の講演会では、「EPUB3」で制作された夏目漱石の「草枕」冒頭部分が紹介され、「これだけの表現が可能なのか」と出版関係者が目を見張りました。

「EPUB3」の日本語仕様採用は、日本電子出版協会の 2009 年以来の取組みによるものであり、今年 5 月には正式版が公表される予定です。既に Word、InDesign、PDF などから EPUB データへの変換ツールも多数使用できるようになっています。

出版社・印刷会社の負担軽減を狙った交換フォーマットの統一規格の取組みが功を奏するのか、国際市場への展開をにらみ EPUB 採用の動きが加速するのか、またそれらが共存していくのか、出版社、端末メーカー、配信会社の今後の動きが注目されます。

(注 1) 日本電子出版協会のメールニュース「JEPANews 168 号」より

●電子出版各社が情報技術で震災支援に立ち上がる

アンテナハウス、ダウンロード製品売上の 50%を義援金として寄付

http://www.antenna.co.jp/news/ahnews_20110325.html

イースト、共同通信と一緒に、iPhone 共同通信ニュースを 1 か月間、無料提供

<http://itunes.apple.com/jp/app/id328812360?mt=8>

eブックランド、「私の復興への願い」のテーマで作品募集、無料で電子出版

<http://www.e-bookland.net/>

医学書院、医療従事者に『今日の診療 WEB 版 法人サービス』や
雑誌・書籍の震災関連記事・ページの PDF を無料で公開

http://www.igaku-shoin.co.jp/misc/311care_kon.html

医学中央雑誌刊行会、被災地での医療・救助活動に従事している方へ医中誌 Web を無料提供

<http://www.jamas.or.jp/news/news26.html>

医中誌 Web から抽出した、災害医療および放射線医学に関連する文献情報を提供

http://www.jamas.or.jp/news/news_earthquake.html

岩波書店、雑誌「世界」「科学」から、震災・原発関係の論文の一部を、無料公開

「育育児典」病気編を、6月末まで無料公開

http://www.iwanami.co.jp/company/index_i.html

インプレス、震災関連情報及び募金・義援金リンクなど

<http://www.impressholdings.com/release/2011/003/20110318b.pdf>

NECビッグロブ「東日本大震災チャリティ壁紙」

<http://www.biglobe.co.jp/press/2011/03/110317-1.html>

昭文社、避難所マップを開設

<http://assist.mapple.co.jp/>

じほう、「日刊薬業 WEB フリーサイト」で東日本大震災に関する記事を無料配信

<http://nk.jiho.jp/servlet/nk/top.html>

じほう発行の雑誌・書籍の関連記事の PDF、および画像データベースの一部などを無料公開

<http://www.japan-medicine.com/jiho/index.html>

日本看護協会出版会、じほう等、「Medical e-hon」にて、災害医療支援に役立つ記事の無料配信

http://www.me-hon.ne.jp/meb/bin/pickup_report_desc.asp

南江堂、看護や臨床関連の書誌データを無料公開

<http://www.nankodo.co.jp/wasyo/free/index.htm>

日経 BP 社、震災関連記事を再録して電子書籍として無料公開

<http://netstore.nikkeibp.co.jp/FYI/110322/108535/?ST=ipad>

日本マイクロソフト、復旧支援を行う非営利法人を対象に、ソフトウェア製品を
一定の枠内にて無償でダウンロード提供他、数々

<http://www.microsoft.com/japan/citizenship/disasterrelief/default.mspx>

農文協、防災食の作り方などの記事を公開

<http://www.ruralnet.or.jp/oyakudachi.html>

パピレスは募金対象コンテンツの売上全額を『東北関東大震災義援金』に

<http://www.papy.co.jp/act/page/topics/disaster.htm>

富士山マガジンサービス、売上げの一部が災害義援金に寄付がされる仕組みを提供

また、避難所約 1000 カ所に対し、出版各社や業界団体の協力の下、雑誌など 3 万冊を寄付

<http://ebook.itmedia.co.jp/ebook/articles/1104/06/news052.html>

富士通、被災された方に向けた情報発信を行う企業や自治体、大学、団体に『ニフティクラウド』を無償提供

<http://www.nifty.co.jp/cs/newsrelease/detail/110314004007/1.htm>

保健同人社、震災関連健康情報を公開

http://www.hokendohjin.co.jp/201103jisin_jouhou

丸善出版は、発行する月刊物理科学雑誌「パリティ」の、過去に掲載した

「原子力発電所／放射線防護」に関する記事を無料公開

<http://pub.maruzen.co.jp/>

【発行】2011年4月18日 三美印刷株式会社経営企画室

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-16-7 TEL : 03-3805-7675

URL : <http://www.sanbi.co.jp>